

# 「 J A 青年組織中期活動計画 」

～魅力ある活動展開、魅力ある組織づくりをめざして～

平成 2 0 年 3 月  
全国農協青年組織協議会

## 1. 盟友の皆さんへ

J A 全青協は、平成 1 5 年 1 2 月の「 J A 青年組織育成対策検討会」報告における今後 1 0 年先を見据えた提起を受け、「 J A 青年組織綱領」(平成 1 7 年 3 月)の制定とあわせ、各組織が抱える様々な課題の解決をはかるため、「 J A 全青協中期活動計画～『 J A 』『地域』『仲間』相互発展計画～」を策定し、3 カ年運動を展開してきました。

この間、私たち J A 青年組織を取り巻く環境は、世界的な規模での資源争奪の勃発等により国内農業への危機的な状況が惹起しつつある一方で、食農教育など地域に根ざした取り組みへの国民からの熱いまなざしが向けられています。こうした課題への的確な対応を含めて、これまでの 3 カ年の取り組みは必ずしも十分ではありませんでした。

このため、現行計画を発展させた新・中期活動計画を策定し、盟友の皆さん方と課題を共有しながらその実践を通じ、魅力ある J A 青年組織づくりをめざそうではありませんか。

## 2. 実践期間

平成 2 0 年 4 月～ 2 3 年 3 月の 3 カ年とします。

## 3. 実践事項とめざすもの

### (1) 組織基盤の強化

活性化対策の検討・提起や地域における交流促進をはかり、青年部未組織 J A および都道府県組織・全国組織未加盟組織の解消(組織化率 1 0 0 %の実現)、盟友数の拡大をはかります。

### (2) 食農教育の強化

「まずはできること」から始め、地域住民等を巻き込みながら展開し、地域に根ざした J A 青年組織の存在感を内外に示す屋台骨の取り組みとしての位置付けをはかります。

### (3) J A 運営への参画

J A ・都道府県連・全国連における組織・事業・経営に対する担い手層の意思反映を通じ、担い手のための J A 改革の実現をはかります。

### (4) 情報ネットワークの拡充

盟友に対する的確な情報提供、盟友同士の情報交換の迅速化の支援を行い、「組織 3 段・情報 1 段」の定着をはかります。

#### 4. 具体的に実践していくこと

各青年組織の抱える課題の優先順位は組織ごとに異なります。また、組織の事情等から全課題に取り組めないことも想定されます。このため、単位組織・都道府県組織は、毎年度活動計画等において優先的に取り組むテーマを決定します。

ただし、JA運営への参画については、JAグループにおける積極的登用措置（ポジティブ・アクション）の検討の動きにも呼応し、全組織で対応していくことを基本とします。

あわせて、こうした取り組みを実効あるものとするとともに、盟友一人ひとりの農業経営の確立・発展をめざすため、「自ら学ぶこと（学習活動）」「政策提言を含めた対外的な発信」の充実・強化をはかります。

##### (1) 全国組織（JA全青協）

###### ① 組織基盤の強化

- ・ 「JA青年部仲間づくり運動」への支援
- ・ テーマ別検討会・学習会等の実施（異業種・他団体との交流を含む）
- ・ JA青年理事研修会の開催（全中と共催）
- ・ JA青年理事全国ネットワークの運営・定着（全中と共同運営）

###### ② 食農教育の強化

- ・ ブロックを主体とした「統一行動」の展開
- ・ 統一資材の作成・提供
- ・ マスコミとの対話・意見交換の実施

###### ③ JA運営への参画

- ・ JA青年組織「全盟友の正組合員加入」
- ・ 経過的な措置としての青年部枠の設定を含めた「1JA1理事・参与の就任」および「全盟友の概ね2割の総代就任」
- ・ 役員および基幹職員との意見交換会

###### ④ 情報ネットワークの拡充

- ・ HPの充実（全国HPコンクールの実施、定期的かつ迅速な更新作業の実施など）
- ・ 都道府県組織・単位組織との双方向の情報受発信

##### (2) 単位組織・都道府県組織

###### ① 組織基盤の強化

###### <単位組織>

- ・ 「JA青年部仲間づくり運動（盟友加入促進運動）」の展開（JAと共同）
- ・ 「JA青年部台帳」の整備
- ・ テーマ別検討会・学習会等の実施（異業種・他団体との交流を含む）

###### <都道府県組織>

- ・ 「青年部中期計画」の策定（「JA青年部仲間づくり運動」への支援）
- ・ JA青年組織幹部（リーダー）研修会の実施（県中央会と共催）
- ・ テーマ別検討会・学習会等の実施（異業種・他団体との交流を含む）
- ・ 役員および基幹職員との意見交換会

## ② 食農教育の強化

### <単位組織>

- ・ 学童農園の設置促進（田んぼの生き物調査、出前授業など）
- ・ 学校給食に対する食材提供へのチャレンジ

### <都道府県組織>

- ・ 県下統一行動日の設定
- ・ 単組取り組みマップの作成

## ③ JA運営への参画

### <単位組織・都道府県組織>

- ・ JA青年組織「全盟友の正組合員加入」
- ・ 経過的な措置としての青年部枠の設定を含めた「1JA1理事・参与の就任」および「全盟友の概ね2割の総代就任」
- ・ 全都道府県中央会における青年代表「理事・参与の就任」（都道府県組織）

## ④ 情報ネットワークの拡充

### <単位組織>

- ・ JAグループ関係機関紙（誌）の皆読運動
- ・ JAホームページ等に青年部ページの開設の促進
- ・ タイムリーな情報提供（定期的かつ迅速な更新作業の実施）

### <都道府県組織>

- ・ 全都道府県組織におけるホームページ開設の促進
- ・ タイムリーな情報提供（定期的かつ迅速な更新作業の実施）

## 5. 財政基盤および事務局機能・体制の確保

運営財源は盟友からの会費だけにとどまらず、JA・中央会・連合会や行政等関係機関からの経費助成も積極的に活用していくほか、活動に対する適切な受益者負担も組み合わせていくなどの工夫を通じて確保していきます。

また、事務局の基本的姿勢が組織運営に与える影響が大きいことから、各組織においては、JA青年組織の育成の観点から対応可能な職員を引き続き確保してもらうよう、JAグループ各段階に要請することとします。

## 6. 取り組みの定期的な評価と見直し

各組織は、毎年度末、自らの活動計画等において取り組むこととしたテーマがどの程度当初の目的を達成することができたかを確認・評価するとともに、その評価を次年度の活動計画の策定にあたり活かしていきます。

なお、JA運営への参画については、全国組織においても、JAグループ調査を通じてその実情・実績を把握するとともに、必要に応じて、対応策を提起していきます。

以上